

①

[時論] 華麗な宴、惨めな湿地

【京郷新聞 2008年11月4日】

韓国で開催されたラムサール条約第10回締約国会議は実に豪華だった。ほぼ完璧と言える施設と会議進行、やりすぎではないかと思うほど華麗な晚餐に参加者から賞賛を受け、外面上は非難されるところのない会議だった。開幕式でイ・ミョンバク大統領は「傷ついた湿地や河川を再びよみがえらせる努力をいっそう推し進め、湿地保護区域とラムサール登録湿地を持続的に増やし、韓国をラムサール条約の模範国家にするようにする」と最上級の言葉を惜しまなかった。

しかし、1971年に締結されたラムサール条約を、韓国は97年になって101番目に加入した。ラムサール登録湿地の全体面積が、条約化入国158カ国のなかで132番目に該当する。世界5大干潟の一つと韓国が自慢する西南海の干潟もすでに半分以上が埋め立てられ消えてしまい、そのうえ現在工事中のものや計画された事業がそのまま実行されたら残りの干潟も半分ぐらいがまた無くなってしまう。

ラムサール条約ジム直が韓国政府の沿岸埋め立てを憂慮しているほど劣悪な韓国の現実を知っているため、大統領の祝辞も外交的なリップサービスに過ぎないという思いを拭い去れなかった。

湿地に関連したNGOたちは、今回のラムサールCOP10が韓国の劣悪な湿地保存の実態を転換させる景気になることを希望し、締約国会議の誘致に先頭で頑張ってきた。しかし、韓国政府がラムサールCOP10に先立ち行った処置は、全体をあわせても48haにしかならない地域の小さな湿地、3つを追加で登録したことがすべてだった。

ラムサール条約が韓国政府に登録を求めている洛東江（ナクトンガン）河口や、漢江（ハンガン）河口、錦江（クンガン）河口のように国際的に危機に直面している水鳥たちの移動経路として重要な湿地は一つも入っていない。

一つの国のラムサール条約の履行のレベルの最も良く示しているのがラムサール登録湿地の実態だ。韓国は合計11箇所のラムサール登録湿地の過ぎず、数字上は他の条約加盟国（平均11.4箇所）と似ている。しかし、その実態は哀れな程度を超え恥ずかしい水準だ。2008年10月19日を基準にして全世界158カ国の国がラムサール条約に加入し、登録されたラムサール湿地の数は1801箇所、面積は1億6314万2801haにも及ぶ。加盟国は平均して11.4箇所、102万109haの湿地を保有しているが、韓国は11箇所すべてを集めた面積が8198haにすぎない。加入国のラムサール湿地の平均面積は9万584haであり、韓国は745haに過ぎず比較の対象にすらならない。

今回のラムサールCOP10で最も目立った国が日本だった。日本全域からの湿地保全団体から200名を超える人々が参加し、全体の展示ブースの半分以上が日本の湿地を紹介する内容で埋められ、自治体の長が直接参加し、自らの地域のラムサール登録湿地を紹介するなど、韓国ラムサールCOP10はまるで日本のための会議だった。緻密な資料と専門性を土台にして政府の湿地政

策の変化を導いている日本の湿地関連団体の活動とこれを支えているボランティアたちの姿はいい刺激になった。

華麗な宴はもう終わった。2010年、日本の名古屋で開催される生物種多様性保存条約（CBD）加盟国総会、2011年、ルーマニアで開催されるラムサールCOP11で韓国政府と韓国の湿地関連NGOが、この華麗な宴をどのように継承するのか、とても心配だ。

【パク・ジュンノク/ラムサール総会NGOネットワーク共同執行委員長】

<http://kr.news.yahoo.com/service/news/shellview.htm?linkid=4&articleid=2008110418132598540&newssetid=1352>

訳者注：本文中に事実誤認とも読み取れる部分がありますが、そのまま翻訳してあります。また団体名の表記が正確ではありません。

②

組織的なボランティア、文化体験が印象的

【東亜日報：2008年11月5日】

日本湿地ネットワーク 柏木副代表

「ボランティアたちが組織的に動いていて不便が無く、会議場周辺で行われた伝統文化の体験も印象的だった」第10回ラムサール条約締約国会議に参加したNGOの日本湿地ネットワーク（JAWAN）の柏木実（62・写真）副代表は「良く準備がされていた会議だった」と絶賛した。

彼は「今回のCOP10の32の議題の中で何よりも水田の食糧生産基地ではなく湿地としての機能を認めた『水田決議』に体験関心があった」と延べ、「これは韓国と日本のNGOの関係者たちが持続的に提案し、反映されたもの」と説明した。柏木氏は「このほかにも『水鳥の飛行経路の保存のための国際協力の増進』、『国際的にも重要なラムサール湿地の目録現況』も興味を持って注目した議題」と付け加えた。

今回のラムサールCOP10の「日本NGOネットワーク」の国際担当でもある彼は、慶尚南道昌原（チャンウォン）市が渡り鳥の飛来地である注南（チュナム）貯水池に大規模な見学施設を設置したことについて「鳥たちの繁殖地であり生活空間の場所を、なぜこのようにしたのか理解できない」と鋭く指摘した。

<http://kr.news.yahoo.com/service/news/shellview.htm?linkid=12&articleid=2008110503011855510&newssetid=82>

訳者注）内容とタイトルが違うような気がするのですが・・・